

下半区環境保全組織



環境保全活動の看板



排水口への堰板の設置



排水口の点検
(梅雨時期前に実施している)

朝倉市は、平成24年7月九州北部豪雨（1時間雨量が最大約80mm）により、河川堤防の一部が崩れるなど大きな被害が発生した。また、同時期に下半区環境保全組織が活動する農地において、ほ場整備を実施していたため、多面的機能支払交付金事業とほ場整備を一体的に取組むことによって、より効果的な活動が図られると考えた。

こうした背景もあり、同組織では降雨を一時的に田んぼに溜める「田んぼダム」などの多面的機能の維持・増進活動に平成26年度から継続的に取り組んでいる。この取組によって、以前は個々の農家の判断によって水田の排水管理が行われていたが、現在は組織全体の農地で田んぼダムの取組が行われるようになった。



福岡県朝倉市

〔洪水防止〕

田んぼダムは、田んぼに降った雨水が一気に河川へ流れ出ることを防ぐために、降雨時に田んぼの排水口を堰板で堰止めて田んぼの中に一時的に水を貯留するものである。約10cmの水量の嵩上げ調整を実施しており、同組織の田んぼの面積が約14haであるため、約14,000m³の雨水を一時的に貯留することができる。

本活動取組開始以降は、本地域及び下流域においても令和3年度まで大きな洪水・氾濫等は発生しておらず、また取組を通して地域全体の防災意識の向上にも繋がっている。

〔景観の保全〕

共同での農道、ため池や水路周辺の草刈り、コスモスの農道への植え付けおよびプランターを交差点に設置するなどの活動によって景観の保全に努めている。

【令和3年度更新】



田んぼダムの取組範囲
(緑色の範囲 約17ha)



ため池の草刈り



プランターへの
花の植え付け